

自立した日常生活を営むために 主治医が果たす大切な役割

● 介護サービスのしくみ



介護サービスについて説明する(社)鹿児島県医師会常任理事の林芳郎先生(写真左)と和田由樹健康リポーター

日本は高齢化の進展とともに、要介護者が増大し続けています。家庭だけでは十分な介護が難しくなってきたり、介護の問題が老後の不安要因の一つになってきています。そのような背景をもとに創設された介護保険制度は、介護を要する状態となってもできる限り在宅で自立した日常生活を営めるようにすることを目的としています。国保でHOT情報では実際に介護サービスを受けるまでの流れについて、社団法人鹿児島県医師会常任理事で林内科医院院長の林芳郎先生にお話を伺い、2月6日、13日、20日の3週にわたってお伝えしました。

心身の状態や介護の必要性等がわかる主治医意見書

—— 介護サービスを受けるには、主治医による「主治医意見書」が必要だと聞きました。その役割や位置づけを教えてください。

林先生／介護サービスを利用するためには、介護の必要性や程度につ

いての認定を市町村から受けなければなりません。その認定は市町村職員等による訪問調査と主治医の意見に基づいており、全国一律の基準を設けた介護認定審査会で公平公正に行われます。ここで主治医意見書が必要になり、主治医は申請者である患者さんの身体や心の状態、家族の状態等について意見を記載し、市町村に提出します。

—— それでは、要介護で認定を受けるまでの流れを簡単に教えてください。

林先生／介護の必要性を感じたら、ご本人や家族が市町村に申請します。すると訪問調査員がその家庭や施設を訪れ、心身の状態等を伺います。その訪問調査結果に基づいて一次判定が行われます。主治医は市町村から主治医意見書提出の要請を受け、様々な項目につい

て詳しく記載します。その主治医意見書と一次判定を加味し、介護認定審査会で二次判定が行われます。市町村への申請は地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等が代行することも可能です。また、主治医がいらない方は市町村に見つけてもらったり、かつて病院に行ったときに診察してもらった医師に記載してもらうこともできます。

—— 主治医意見書は重要な役割を担っているのですか。それにはどのようなことが記載されているのですか？

林先生／要介護認定申請書の「身体状況または精神上の障害の原因である疾病または負傷の状況など」について次のような5つの項目に分かれています。

① 傷病に関する意見—— 病名や障害名とその発生時期、傷病の経過や投薬などの治療内容、症状としての安定性、介護の必要程度に関する予後の看通し等↓介護の注意点等大まかな全体像をつかむ。

② 特別な医療—— 医療への依存度↓介護を提供するためにどのような専門技術が必要であるかを判断する。

主治医意見書の役割

1 認定調査

2 介護の手に係る審査判定

- 一次判定 (認定調査結果の修正)
- 二次判定 (介護の手にかかる程度)

3 状態の維持・改善に係る審査判定

- ・ 認知機能
- ・ 状態の安定性
- ・ 廃用の程度

4 介護サービス計画の作成

主治医意見書

生活機能を正しく評価する

— 主治医意見書は適切な介護サ

③心身の状態に関する意見—障害や認知症のある方の日常生活の自立度↓見守りや介助援助の必要性を判断する。

④生活機能とサービスに関する意見—介護サービス計画作成や実施する際に発生の可能性が高い病態とその対処方針、医学的管理の必要性

⑤その他特記すべき事項—日常生活を営む上で必要とする様々な介護の手段、申請者や家族の希望等

サービス計画を立てるために大変重要であることが分かりました。要介護認定の申請を出そうとしている方はしっかりとその内容を把握し、主治医の先生に申請者の情報を正確に記載してもらい必要がありますね。

林先生/主治医意見書には診断書としての記載だけでなく、患者が日常生活を営む上で自らができることとできないことを整理し、介助が必要な動作や作業を「介護の手段」として適切に表現する必要があります。そして通常の診察において生活機能を正しく評価し、さらに認知症症状がある高齢者の家族には適切な対応や見守りの指導が必要です。

— 今、「生活機能」という言葉がでてきましたが、具体的にどのようなことでしょうか？

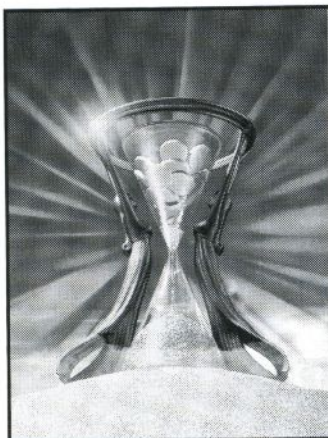
林先生/生活機能とは日常生活活動のことです。炊事や洗濯、掃除等の家事や、入浴や歯磨き等の生活行為、通院や買い物等の外出、趣味や楽しみ等の活動があげられます。なぜこの生活機能が重要であるかという点、病気の程度と介護サービスの程度が一致していないからです。たとえば脳卒中を患

い半身麻痺になったとします。その方が日常生活を普通に送れば、介護サービスを受ける必要はありません。しかし、病気が原因で歩く際につまづいたり、自分一人では外出できない等誰かの手助けがいるときは介護サービスが必要です。病気が発生したことで、生活機能がどれだけ低下しているかがポイントになります。

主治医がお互いに役割を確認し連携する

主治医は患者の病気を治療するだけでなく、介護保険制度においても大切な役割を担っていることが分かりました。高齢者が要介護になっても自立した生活を営むためには、病気を治す主治医と、患者の身近に存在し病気だけでなく生活も支援する主治医(かかりつけ医)がお互いに役割を確認し連携することが大切です。

人は身体や心に病気をもっている、住み慣れた地域で普通の暮らしを続けたいと願うものです。そのためには本人や家族、行政、医療福祉の分野が連携し、お互いに尊重しあいながらがんばっていかなくてはならないと思います。



胃炎・胃潰瘍治療剤

指定医薬品

薬価基準収載

ムコスタ® 錠100 顆粒20%
Mucosta® レバミピド製剤

◇ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先
大塚製薬株式会社 信頼性保証本部 医薬情報センター
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー 13F

(07.04作成)